

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 昭島たなか教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	97	(回答者数) 70
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援から放課後等デイサービスに移行支援を行っている為、切れ目のない支援が実現できている。	就学に向けた支援方法を一緒に検討したり、放課後等デイサービスへの移行を前に、強みや課題を共有している。	保育所・幼稚園、小中高との連携をより一層深めていく。 また、職員一人ひとりの就学に向けた方向性の一致、保護者からの就学相談に応じられるように努めていく。
2	活動プログラムを曜日ごとに分けて、○○療育と捉われない様に様々な活動を取り入れている。	毎月、活動プログラムを職員全体で話し合っていると共に日々の児童の様子や、保護者の要望・ニーズを捉えながら活動プログラムに取り入れる様にしている。	児童や保護者のニーズを把握しながら、プログラム内容の充足を図っていく。
3	内部研修・外部研修を多く取り入れて、職員一人ひとりの専門知識を深めながら、支援の質を高められる様にしている。	研修を受講した職員が、他の職員への振り返りの場を設けて、受講した職員が理解を深められる様にしている。	様々な研修を受講していき、職員全体で専門知識を深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児や肢体不自由児の受け入れが難しい。	看護師など専門職員の配置が難しい。 また、建物の構造上、バリアフリー化が出来ていない。	見学等は随時、対応していき、関係機関や専門職員、教室全体で検討していきながら、安全な受け入れ態勢が整えられる様に努めていく。
2	曜日の固定契約になる為、参加できる活動プログラムが固定化してしまう。	曜日ごとに活動プログラムを設定している為。	曜日ごとに活動プログラムを設定しているが、他の方法の検討（週替わり・月替わりなど） また、固定曜日ではない曜日もご案内していく。
3	保護者向けのイベントや地域住民との関わりが出来ていない。	イベントの企画が出来ていない事。 地域住民との関わりができる機会が少ない事。	お子さんと一緒に参加できるイベントを行い、好評だった事もあり、継続していきたい。 保護者向けのイベントについては、保護者からの要望など聞きながら、検討していく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 昭島たなか教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	91	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスでは、適切なプログラムが作成され、保護者様に2か月前に公表できている。	毎月、活動に着目したプログラム会議に取り組んでいると共に日々の児童の様子や、保護者の要望・ニーズを捉えながら活動プログラムに取り入れる様にしている。	毎月の活動プログラム会議では、正社員を中心に行っているが、パート職員などの意見やプログラム案を取り入れ、活動プログラムが固定化されないようにしていく。
2	研修を受講する機会や、法人内で研修を設け、職員の資質向上を図る機会が十分に確保されている。	内部研修・外部研修を多く取り入れて、職員一人ひとりの専門知識を深めながら、支援の質を高められる様にしていると同時に、研修を受講した職員が、他の職員への振り返りの場を設けている。	様々な研修を受講していき、受講した職員が理解を深め、職員全体で専門知識を深めていく。
3	職員一人ひとりが家族等からの子育ての悩みや、保育園での様子からの悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	児童をご自宅送り時、本日の様子を伝えると同時に、保護者様からの悩みがあった際は、職員一人ひとりが心身に向き合って傾聴している。傾聴した悩みは、全職員に共有し、どのような支援ができるのか等を考える場を設けている。	家族等からの子育ての悩みや、保育園での様子からの悩み等はモニタリング面談時に多い。送迎時など限られた時間ではあるが、日々の申し送りの中で悩みの相談窓口となれるような環境を作る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の構造上、階段や段差が多く、医療的ケア児や肢体不自由児の受け入れが難しい。	看護師など専門職員の配置が難しい。 建物の構造上、バリアフリー化ができていない。	見学等は随時、対応していき、関係機関や専門職員、教室全体で検討していきながら、安全な受け入れ態勢が整えられる様に努めていく。
2	保護者向けのイベントや地域住民との関わりが少ない。	毎月一回活動プログラムにイベントがある中で、お子様と一緒に参加できるイベントが、年に一度しかない。 地域住民との関わりができる機会が、公共の場（公園）しかない。	お子さんと一緒に参加できるイベントを行った結果、好評だった事もあり、今後も継続していくと同時に増やしていきたい。また、保護者向けのイベントについては、保護者からの要望などを聞きながら、検討していく。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定しているが、職員や家族等に周知されていない。	活動を通して避難訓練等行うが、保護者に伝わりにくいと同時に、保護者はマニュアル等は見るとは気づかない。 他にも非常勤職員に対して共有が不足してしまう事がある。	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練の内容・様子をSNS(インスタグラム)等を活用し、発信していく。 非常勤職員も含め、全職員で非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練に取り組む。